



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191700044		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・鴻巣		
所在地	埼玉県鴻巣市大芦1499-1		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和4年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスによる行動制限のなかですが、昨年と変わることない面会の継続をさせていただいています。外出まではできませんがテラスに出て日光浴や夕涼みなど行動範囲をなるべく狭めないようにしています。毎日のおしゃべりしながら洗濯物干しや乾いたものを取り入れたりなどお手伝いもいただいています。みんなの家・鴻巣のテラスからは音楽室のような歌声も聞こえてきます。今は、黄金色に姿を変えようとしている稲穂の上を吹きすぎる風も幾分秋の訪れと冬の到来が近い事を告げているかのようになりました。季節を感じながら暑い寒いと言いつつ日々暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR高崎線吹上駅より徒歩18分の所にある2階建て2ユニットのグループホームである。幹線道路沿いに立地しているが水田に囲まれ、季節の移り変わりが感じられるのどかな環境にある。コロナ禍で戸外に出掛けることが困難な状況にあるため、テラスを利用し外気浴や茶会、音楽を楽しむなど、気分転換に配慮している。また、職員と一緒に洗濯物を干したり取り込んだりするなど、家庭のように楽しい生活ができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所理念が共に反映しあえるものとなっています。	管理者は月1回の職員会議や食事、茶会をするときなどの機会を捉え、理念について話し合い、職員と共有しあい、理念に沿った介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	御利用者様の生活歴や地域との関わり方を考慮して程よい距離のパイプ役になれるような支援をしています。	コロナ禍以前は地域の祭りなどに参加していたが、3年ほど自治会行事が中止となっている。自治会に入会しており、職員が下水の掃除などを行い地域の方と交流している。	コロナ禍により交流機会が少なくなっているが、自治会や地域の方との繋がりを大切にし、継続した取り組みが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症が特別なことではなく、今までのような生活を継続しながら自分らしい生活を続けられるように支援しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターや行政、地域の方々の協力を頂きながらサービスの向上に力を入れています。	コロナ禍のため昨年は開催できなかったが、玄関先で窓を全開にし扇風機で換気を行うなどの工夫をして、2か月に1回、市の担当者、包括支援センター、自治会長、家族に参加いただき開催している。コロナによる運営の影響や利用者の様子を気にかけていただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会、地域ケア会議等、行政や公的機関の情報交換などを有効に活用させていただいています。	市からメールや郵便で案内があり、アンケートなどの返信をしている。介護保険の更新申請で出向いたり電話でやり取りをしており、管理者は市担当者と密に連絡を取り協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年4回開催しています。研修会も年2回開催しています。	身体拘束廃止委員会を年4回、研修会を年2回開催している。事例検討を行い、拘束をしないケアについて理解を深め、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をする側される側の根本的な原因を想定した虐待防止委員会を年3回開催、研修会は2回開催して抑止できる体制を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットを活用しています。又、新聞等で実際にあった事例等で勉強できる機会をもうけ支援に繋がる努力をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明不足により理解や納得が出来ないままではなく相互理解に至るまでお時間を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護職員一人一人が御家族様、御利用者様と常に向き合い共有姿勢で対応させていただいています。	面会時や連絡時を捉えて家族の意見を伺っている。意見や要望のあった場合はそれを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	立場的な関係を重視せず、よりよい意見の提案を優先しています。	月1回の職員会議で意見を出し合い検討し、できることは全員で共有してから運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	創意工夫や向上心をもって努力することも評価に繋がるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、テーマを決めて個々の能力に合わせた話し合いの時間を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域との話し合いの機会が少しずつ増えています。感染予防に気を付けながら参加できるようにになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時には御家族様より話せる範囲で情報の提供を頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでは、御家族様の不安が解決するまでお話合いの時間を頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な人に必要なケアを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症は得意不得意が明確に表現されただけのことであり、得意なことを伸ばしていきたいように支援していきたいと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連携と共有こそが御利用者様を支える力と考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	距離を持ってコロナ禍の面会も継続してきました。触れ合える時までは途切れることがないように努力していきます。	コロナ禍のため、馴染みの人や場所に出掛けることができていないが、職員を介して電話などの取次ぎ支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の活発な交流がみられています。喜怒哀楽をそれぞれ主張しながらも協調性のバランスが保たれています。		

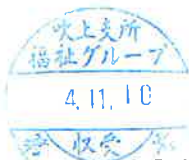
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された御家族様の運営推進会議参加や遊びに来ていただける環境が出来ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動、行動の中から御利用者様が求めていることの情報把握に努めています。	職員は利用者の発言や行動を観察しながら思いや意向の把握に努めている。得た情報は皆で共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様それぞれの個性・習慣・生活歴をサービスに生かせるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今日出来ることが明日も出来るように気力の維持継続に力を入れています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様・御利用者様・介護者其々の立場での意見意向を共有したものを介護計画に反映できる努力をしています。	サービス担当者会議を開催し、事前に本人の希望と家族の意向を面会時や電話などで確認し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録の他に日々の生活のなかで気づきがあれば申し送りメモに記載し共有体制が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様の人数だけ介護の多様性が必要と考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事参加が難しいコロナ禍の情勢ですがテラスに出たりして行動範囲をなるべく狭めない努力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と御家族様の直接契約となっています。	協力医療機関の往診と訪問歯科が月2回、訪問看護と歯科衛生士の訪問が月4回あり、協力医療機関の医師は希望により随時対応してくれている。かかりつけ医への受診は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問と日々の体調変化にもすぐに対応できる体制を構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報共有は医師・看護師・介護者の間で共有され御利用者様が安心できる体制を築いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は医師・御家族様・介護者との話し合いとなっています。	ターミナルまでの支援を希望されるケースがあり、家族の意向に応じてその都度、説明と同意を確認しながら医療・介護のチームを形成し支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問医や訪問看護師から指導を頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の時には消防署の立ち合いをお願いし改善点のご指導いただいています。コロナが終息したときには近隣の方々にも参加をお願いしたいと思います。	年2回の防災訓練を実施し1回目は8月、2回目は消防署の立ち合いを予定している。その他夜間想定や地域の状況に即した水害訓練を年2回、地震訓練を年1回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様の習慣を尊重し、プライバシーの確保には特に配慮しています。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーへの配慮をしている。日頃のケア中で職員同士で声を掛け合いながらプライバシーへの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮をしないさせない介護を実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のご提案はさせていただきますが自己決定がなにより優先されます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数点の中より選択出来るような提案方法をとらせていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月食事会を開催をしています。御利用者様より希望メニューを募り手作りしながら楽しんでいきます。	食事を楽しんでいただくため、毎月食事会を開催し、うどんやラーメン、ちらし寿司などを作り喜ばれている。庭に柿の木があり干し柿を作り、懐かしんだりして楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の体調や顔色などを確認しながら必要に応じた栄養や水分の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは御利用者様の出来る力に応じた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位ができる限りトイレでの排泄介助を支援しています。	日中はリハビリパンツで対応し、トイレでの排泄を支援している。夜間はトイレに行ける方は定期的に誘導し、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけではなく体操や口から食べて改善できることに力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	マンツーマン対応になっています。御利用者様のペースに合わせた入浴内容になっています。	週3回の入浴支援をしており、拒否のある方などは日を変えるなど柔軟に対応している。夏場は1日毎にシャワー浴にしたり、入浴剤やゆず湯などを工夫して変化のある楽しい入浴ができるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠と起床のリズムを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師の指導に沿って日々の御利用者様の体調を確認しながら服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食えることや寝ること楽しむ事が出来るような生活を支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により支援の幅は小さくなってしまいが出来る範囲の支援をしています。	コロナ禍のため、現在は遠くに出掛けたりすることができていないが、1階のテラスを利用して外気浴や音楽を聴いたりして気分転換をしていただき、楽しく過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と御利用者様の意向によりお手伝いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のコロナの状況により御家族様よりお手紙を御利用者様に書いていただけるようお願いしている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの中にも季節を感じてほしいと思っています。風や太陽とお話できるような場所を作っています。	室内の採光は十分にあり、窓を開放して外の景色の移り変わりや稲穂を刈った香り、金木犀の香りなどを感じていただいている。空調も適切にコントロールされ、リビングにはテレビやテーブル、本や新聞、カレンダーなどがあり、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的なルール以外は自由に過ごせる時間が確保されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活に支障がない限り御家族様・御利用者様の意向に沿える努力をしています。	入居時に使い慣れた馴染みの物を持参していただいているが、沢山持ち込まれる方は少数で入居が長くなり写真など物が多くなると片付けてシンプルな居室で過ごしている方が多い。職員は毎日居室の清潔に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化されています。		



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者をコンスタントに5人から6人程度に増やしていきたい。季節により参加人数に変動があります。	開催時には、参加人数を4人以上に増やしていきたいと思います。	毎回、開催する内容を事前にお知らせしたり、開催時に解決できなかったテーマや要望、疑問など次回に続く内容として盛り込んでいきたいと思います。	12ヶ月
2	20	なじみの人との関係性を維持していきたい。コロナにより家族の面会が少なくなったり、面会間隔が長くなったりと絆が細くなりつつあります。	コロナ禍により大人数や面会回数を大幅に増やすことはできませんが、継続的な面会の機会を途絶えさせることなく維持していきたいと思います。	御利用者様の笑顔と声を御家族様に届けられ、感染予防も出来るようなスペース確保をしていきます。季節により場所の変更はありますが、会いたいときに会える場所のご案内が出来るようにしていきます。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。